

S I B を活用した健康ポイント事業
「おかやまケンコー大作戦」
事業報告書
(事業期間：平成30年度～令和4年度)

令和5年11月

岡山市保健福祉局保健管理課

目次

はじめに	P 3
1. 事業開始の背景	P 4 ~ 9
2. 事業概要	P 10 ~ 11
3. 岡山市 S I B 事業の特徴	P 12 ~ 19
4. 事業実績	P 20 ~ 24
5. 事業評価	P 25 ~ 32
まとめ	P 33 ~ 35

はじめに

ソーシャル・インパクト・ボンド（S I B）を活用した健康ポイント事業である「おかやまケンコー大作戦」は、企業や金融機関、行政がそれぞれの強みや資金をいかし、健康づくりのためのサービスが身近な場所で受けられる環境を整え、市民の皆さんに日常生活に健康的な習慣を取り入れていただくことで、自然に健康になれるまちの実現を目指した事業です。

事業期間は、準備や最終事業評価を含め、平成30年度から令和4年度までの全5カ年に渡り、事業組成当時、総事業費が約3.7億円にのぼる国内最大のS I B事業としてスタートしました。

当事業の最大の特徴は、地元の複数の事業者が出資し、かつ、ポイント付与の対象となるサービス提供や事業運営にも携わったことだと考えています。これにより、これまでは行政が主に担ってきた「市民の健康増進」に新しい形の官民協働で取り組むことができました。

S I Bという新しい手法に取り組むことは順調なことばかりではありませんでしたが、令和4年度末で事業が終了したことから、これまでの岡山市の取り組みの成果や課題をまとめることとしました。

今後、同様の取り組みを検討されている自治体や事業者の皆さまにとって参考になれば幸いです。

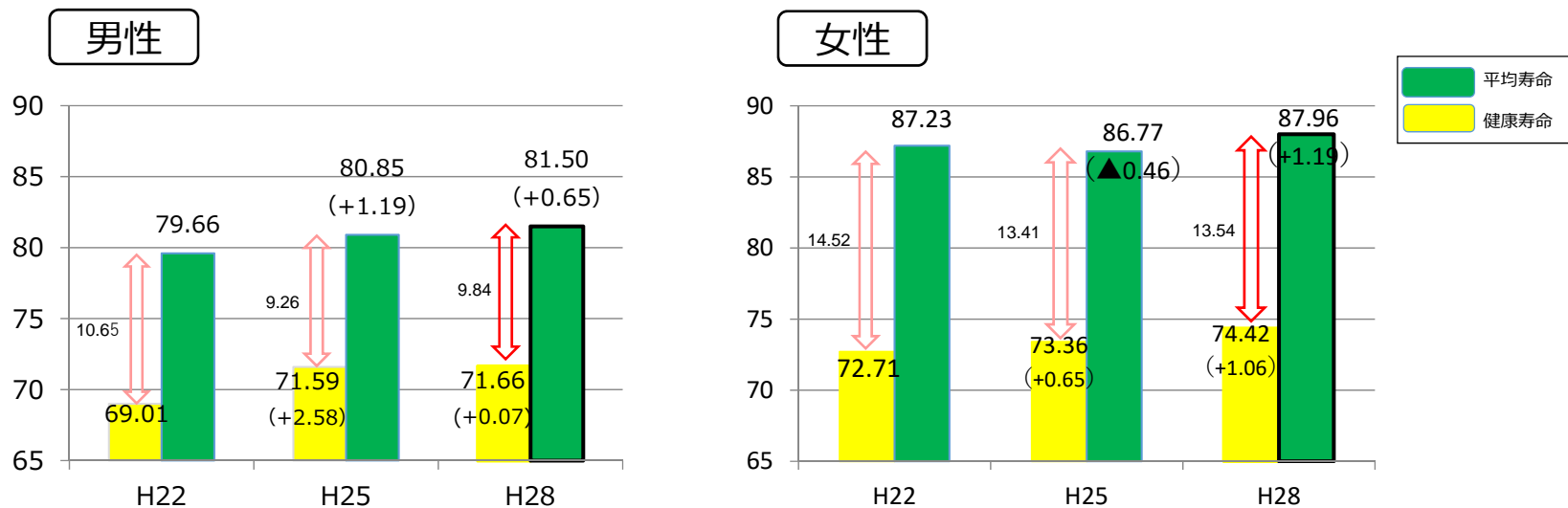
SIB組成当時(H29)の課題①「健康寿命」

前回比較：平均寿命、健康寿命ともに延伸（H28・H25比）

全国比較：平均寿命は長いが、健康寿命が短い（H28）

岡山市は全国平均よりも平均寿命と健康寿命の差（不健康期間）が長いという結果。

○岡山市の平均寿命と健康寿命の推移（事業組成当時）



平成28年	平均寿命		健康寿命		平均寿命 - 健康寿命	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
岡山市	81.50	87.96	71.66	74.42	9.84	13.54
全国	80.98	87.14	72.14	74.79	8.84	12.35
岡山市-全国	0.52	0.82	▲ 0.48	▲ 0.37	1.00	1.19

※健康寿命とは「日常的に介護を必要としないで、自立した生活ができる生存期間」のこと（WHO）

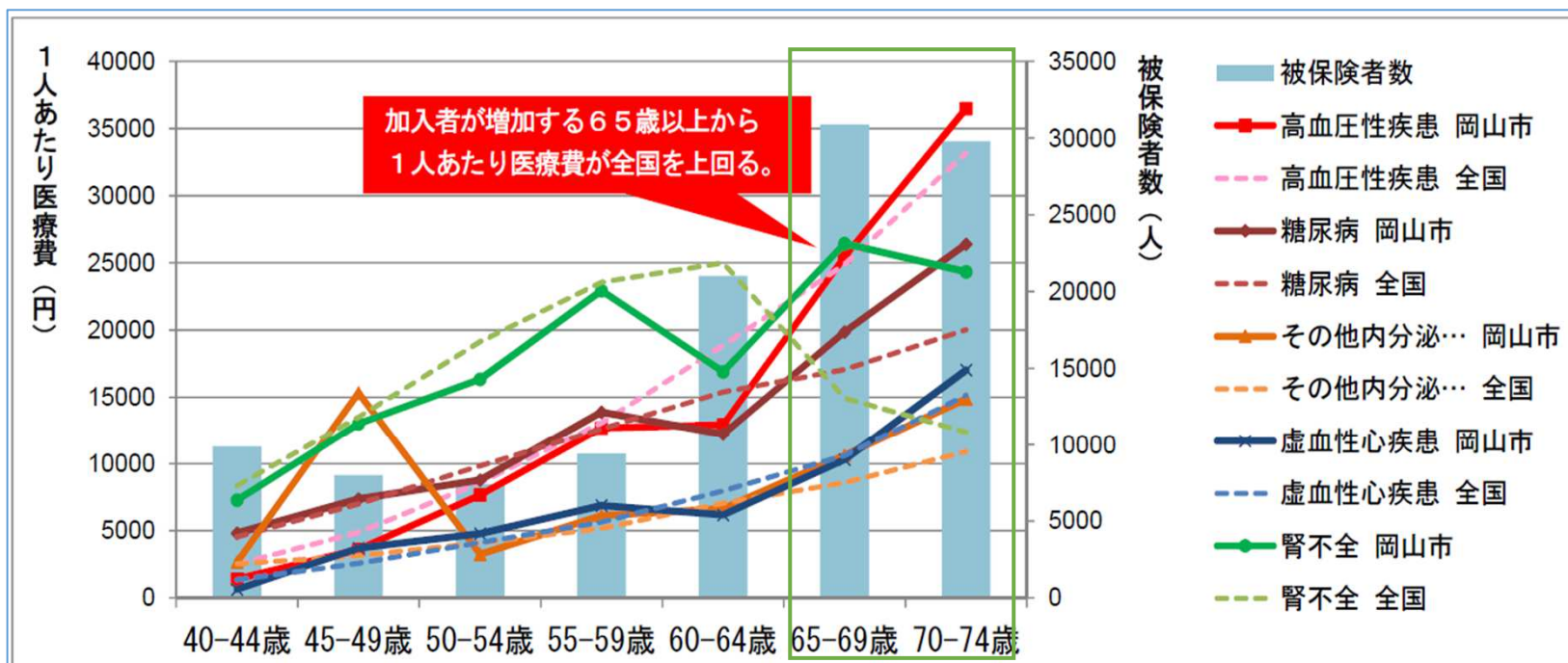
平均寿命：国民生活基礎調査のデータをもとに岡山市が算出

健康寿命：令和3年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）「健康日本21（第二次）の総合的評価と次期健康づくり運動に向けた研究」分担研究報告書「健康寿命の算定・評価と延伸可能性の予測に関する研究」

SIB組成当時(H29)の課題②「生活習慣病に係る医療費」

全国との比較：生活習慣病関連疾患に係る1人あたりの医療費が65歳未満は低く、
65歳以上は高い傾向にあった。

○岡山市の生活習慣病に係る1人あたり医療費の推移



※グラフの実線は岡山市、点線は全国の1人あたり医療費を示す。

生活習慣病とは、食生活や運動、喫煙などの不適切な生活習慣によって引き起こされる病気の総称です。生活習慣病に関連する病気として、高血圧、糖尿病、脂質異常症、心筋梗塞、脳梗塞、糖尿病性腎症などの病気が挙げられます。

「平成27年度岡山市国民健康保険医療費等分析報告書（概要版）」

課題解決に向けた方向性

- ・ 壮年期のうちから企業ぐるみで健康的な生活の習慣化
- ・ 「運動」・「栄養・食生活」・「社会参加」の地元ヘルスケアサービスの利用促進
- ・ インセンティブを付与し健康無関心層を含む多くの市民や企業（従業員）の行動変容を促す

健康寿命延伸の主要3分野

運動

栄養・食生活

社会参加
(生きがい)

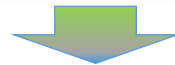
地元企業の豊富なヘルスケアサービスの利用促進

×

インセンティブの付与や魅力的なサービスの提供により

健康無関心層

多くの市民や従業員を健康的な生活習慣に



健康寿命の延伸
生活習慣病予防（医療費抑制）

岡山市健康ポイント事業の沿革


平成31年度から「SIBを活用した健康ポイント事業」を実施
(ベースとなる「健康ポイント事業」は平成26年度に開始し、本事業で3世代目)



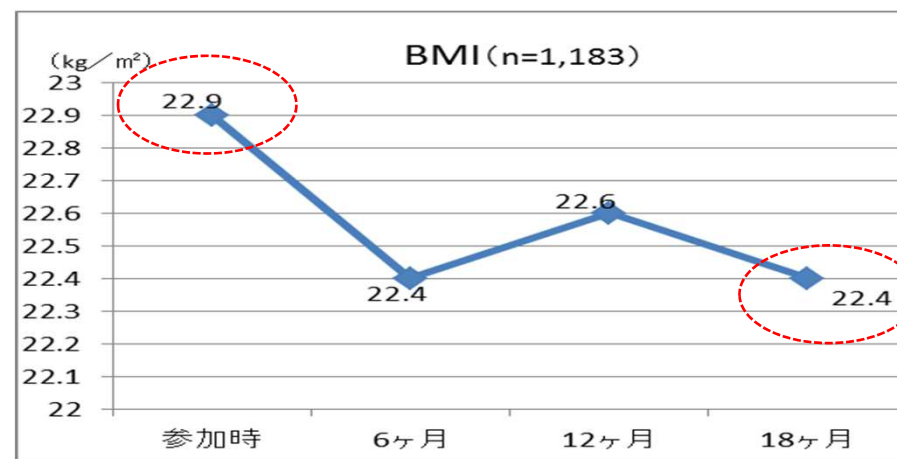
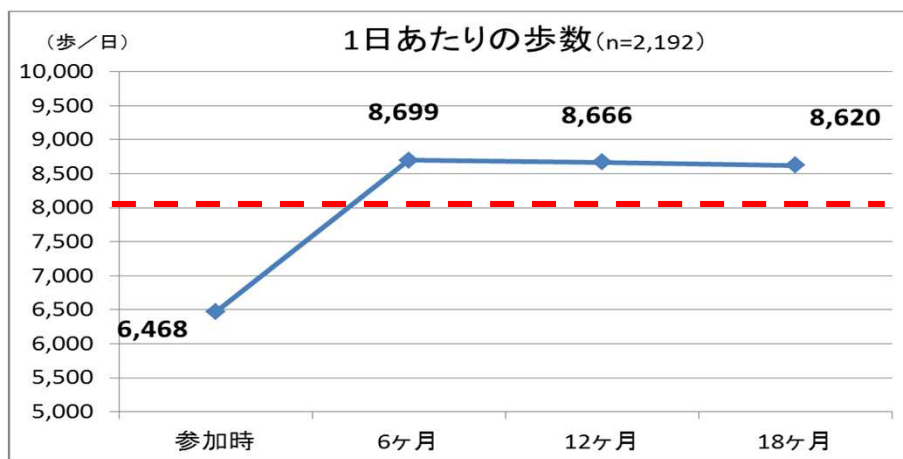
健康ポイント事業にSIBを活用するまでの経過①（第1世代）

- 国の総合特区に指定され、全国6市合同の実証実験として平成26年度から3年間実施。
- 対象は40歳以上の市民のみ

⇒事業実施により、歩数の増加やBMI値の改善などの効果がみられた。

平成26年度 (初年度)	○20大都市健康寿命発表（岡山市：男性18位、女性15位） ○総合特区『健幸ポイントプロジェクト』参加 ※全国6市実証実験
平成27年度	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>第1世代 健康ポイント事業</p> <p>H26-28 4,431人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・40歳以上 ・市民のみ  </div>
平成28年度	

歩数増加、BMI改善、医療費抑制等の効果



健康ポイント事業にSIBを活用するまでの経過②（第2・第3世代）




<第2世代>

- 対象を35歳以上に拡大し、企業での参加枠を新たに設け、岡山市のみで地方創生推進交付金を活用して実施

<第3世代>

平成29年度から事業組成に着手、新たな官民連携の手法としてSIBに着目

- SIBに関する全国的な勉強会に参加し、地銀、地元企業とともに健康づくり分野でのSIB活用について検討開始。
- 平成29年12月頃よりSIBの専門家として、一般社団法人 社会変革推進財団からの支援を受ける。

平成29年度	<p>第2世代 健康ポイント事業 H29-30 4,996人 ・35歳以上 ・市民・企業</p> 	6月 ヘルスケアSIBスキーム検討会 参加 8月～ 岡山市SIB健康ポイント案件組成 12月～ 社会的投資推進財団（SIIF）支援	 SIB 2事業 ・健康ポイント ・生涯活躍就労支援
平成30年度		4月 「G20保健大臣会合」岡山市開催決定 6月 「SDGs未来都市」岡山市選定 8月 「地方創生推進交付金」交付決定 12月～ 協定書・委託契約締結 事業準備・参加者募集	
令和元年度		「G20保健大臣会合」岡山市開催	
令和2年度		<p>第3世代 健康ポイント事業 H30-R4（大作戦R1-3） 定員15,000人 ・35歳以上 ・市民・企業・グループ</p> 	
令和3年度			
令和4年度		最終評価・出資者へ元本償還・配当	

おかやまケンコー大作戦の概要



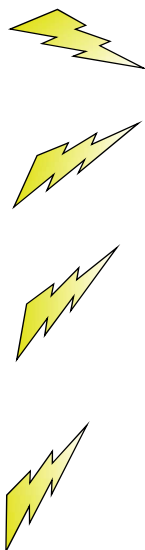
- 【目的】 多くの市民・在勤者の健康づくり、ヘルスケア産業の振興
- 【実施期間】 5年間（H30準備、R1～3大作戦実施、R4最終評価）＜地方創生推進交付金（先駆型）＞
- 【対象者】 **35歳以上**の市民及び在勤者
- 【定員】 15,000名（コース：個人／**企業**／グループ）（令和3年8月末現在 14,064人、74社）
- 【参加費】 無料（各サービス利用料は別途必要）
- 【内容】 健康寿命延伸に寄与するとされる 「①運動」、「②栄養・食生活」、「③社会参加」に関するサービス利用を促すため、利用状況に応じてポイントを付与し、そのポイントランキングに応じて、商品券等の特典を送る。更に、企業ランキング上位には、会社自体に健康経営の助成を行う。

①運動ポイント(15pt)
・フィットネスジム利用など

②栄養・食生活ポイント(10pt)
・スーパーのお弁当購入
・飲食店メニュー喫食など

③社会参加ポイント(5pt)
・カルチャークラブ受講など

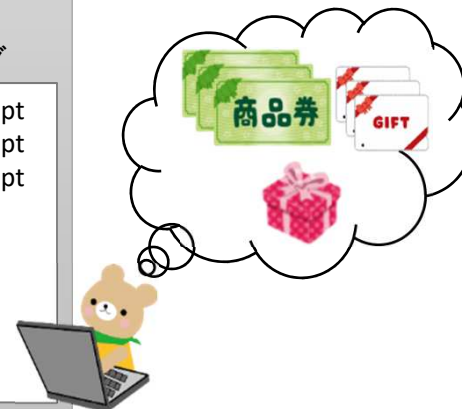
その他
・健診受診、体組成計測定
・歩数（歩数計又はアプリ）



ポイントランキング

1位	OKD1111	6,000pt
2位	OKD2222	5,500pt
3位	OKD3333	5,000pt
.		

ポイント特典



ポイント付与の仕組み

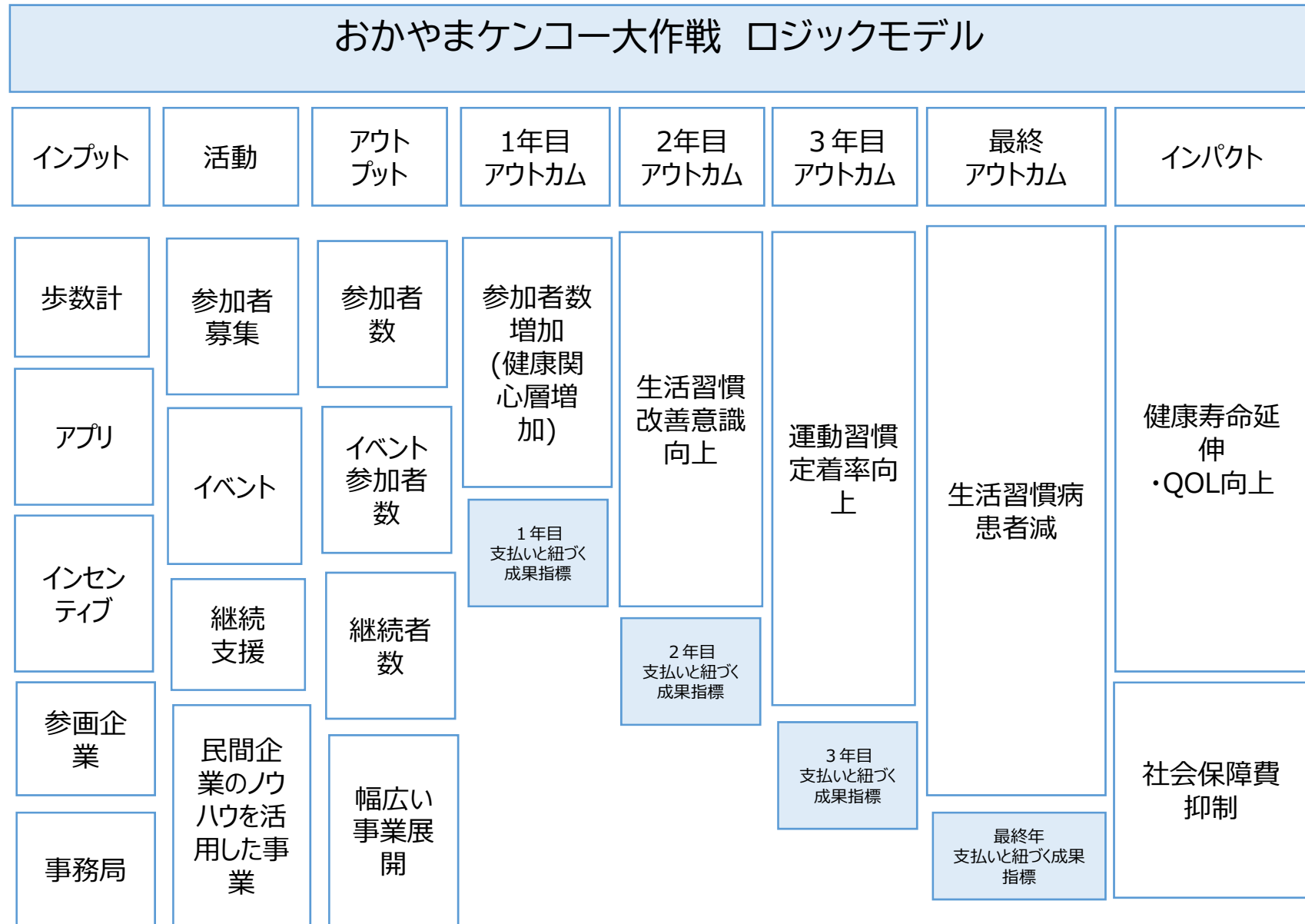


店員が専用アプリで、ポイントカードを読み取ることで、その場でポイント付与



184店舗（令和3年3月末現在）

成果指標（ロジックモデル）



岡山市版SIB事業の特徴

① 日本初の複数事業者によるサービス提供

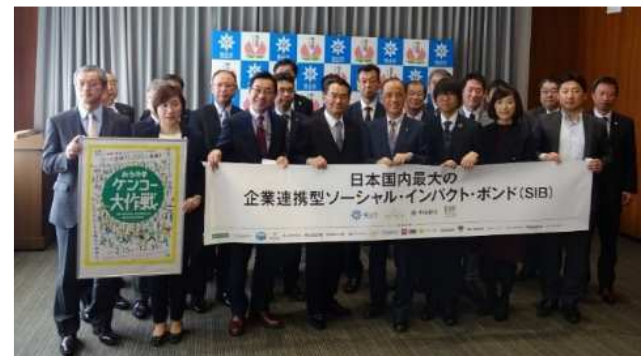
(競合及び異業種の地元企業が様々な生活習慣改善メニューを提供)

フィットネス、スーパー、
デパート、小売店、
医療機関、薬局、新聞社

② 日本初の複数事業者が出資

(市民の健康課題の解決のため地銀や地元企業によるオール岡山で投資)

③ 国内最大の事業規模 約3.7億円



平成31年2月16日 共同記者会見
(岡山市・PS瀬戸内・中国銀行・社会的投資推進財団(SIIF))

S I Bを活用して目指したもの

<行政>

- 市民の健康課題解決への地元企業を巻き込む**新しい官民連携の形**と成果に応じた**適切な行政負担**

<サービス提供者>

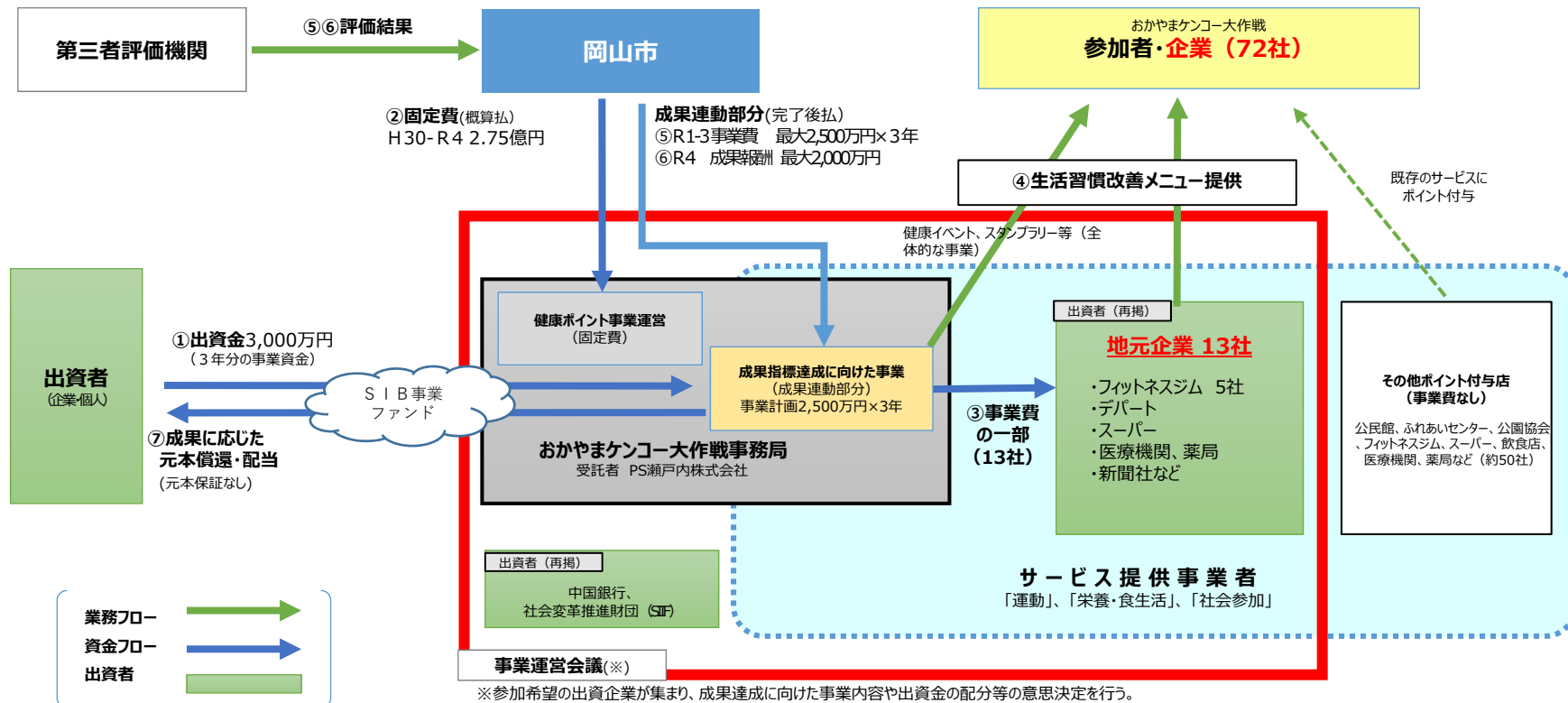
- 成果連動型支払による民間企業がもつ**高いノウハウの発揮**

<出資者>

- 適切なリターンによる、**持続可能な社会課題解決への貢献**

特徴①岡山市独自の企業連携型SIBスキーム

- ① 「おかやまケンコー大作戦事務局（以下、「事務局」という）」は、「SIB事業ファンド」を通じて、事業資金を集める。（3,000万円調達）
- ② 市は、「事務局」へ健康ポイント事業運営に係る固定費を概算払する。（システム、特典、評価、資金調達、印刷物、郵送料等）
- ③ 「事務局」は、成果指標達成に向けて毎年2,500万円の事業を計画し、その事業費の一部を「地元企業13社」に配分する。
- ④ 「事務局」と、「地元企業13社」は、毎年定められた成果指標達成に向けて、参加者に生活習慣改善メニューを提供する。
- ⑤ 市は、毎年度末（R1-3）「第三者評価機関」の評価結果を確認し、成果が確認できた分だけの事業費を支払う。
- ⑥ 市は、最終年度（R4）「第三者評価機関」の評価結果を確認し、事業全体（R1-3）の成果報酬を「事務局」に支払う。
- ⑦ 「事務局」は、「出資者」に対して成果連動部分の売上（市からの収入）に応じた、元本償還・配当を行う。（元本保証なし・最大140%）



サービス提供の事例 1 (地元企業13社)



栄養
10pt

健康なお弁当の開発 (スーパー)



社会参加
5pt

岡山城での健康イベント (新聞社)



運動
15pt

オンラインフィットネス (スポーツジム)



運動
15pt

ウォーキングイベント (スポーツ用品店)



栄養
10pt

食事・栄養セミナー (薬局)

サービス提供の事例 2 (受託者：事務局)

企業対抗バーチャルウォーキングラリー開催



- ・バーチャル上の現在地
- ・チェックポイントの観光情報
- ・ランキング表示など



上位企業の表彰式
(保健福祉局長)



コロナ禍における身体活動量の低下を防ぐ
「企業対抗バーチャルウォークラリー」
(※令和3年度実施)



各社出展の
イベント開催

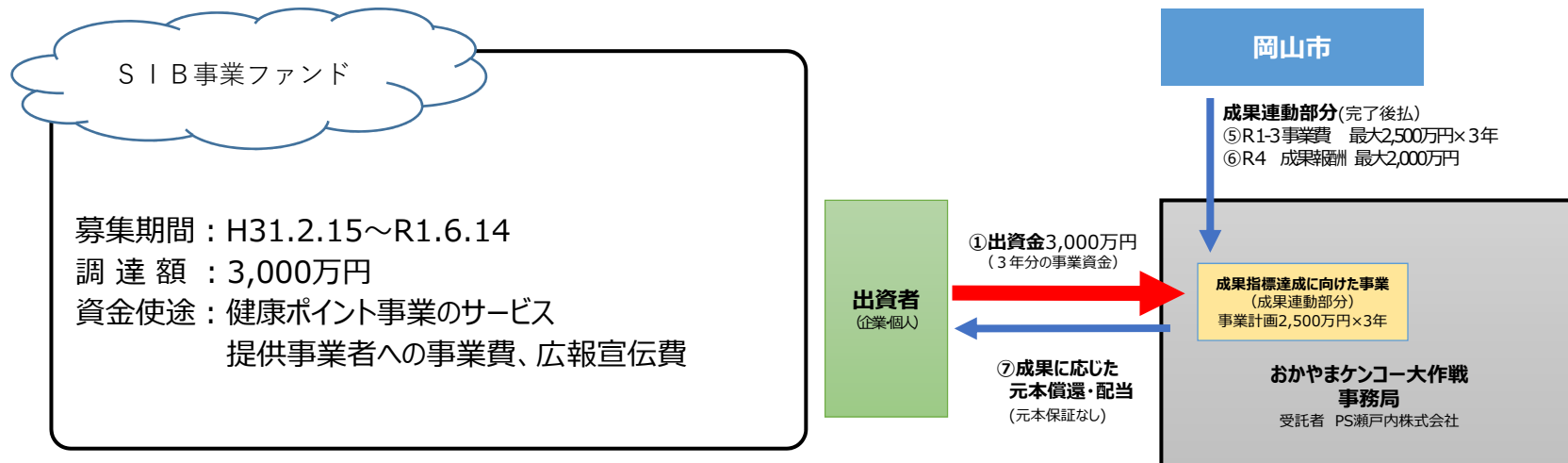
複数の事業者のサービスを体験できる
「フィットネスマルシェ」



ポイント対象の
飲食店を巡る
スタンプラリーの実施

ポイント対象店の利用促進のための
「飲食店めぐりスタンプラリー」

特徴② 地元企業や地銀等が市民の健康課題解決に出資



※スキーム図一部抜粋

	調達金額（調達率）	出資者数
企業向け	2,700万円（100%）	23社
個人向け	300万円（100%）	65人

特徴③ 国内最大の事業規模

健康課題解決を促すための成果指標

	成果指標	支払上限の基準値
H30	—	—
R1	参加登録者数	15,000人
R2	生活習慣改善の意識	80%
R3	週2回以上の継続者数	9,000人
R4	健康状態の改善率（参加時比） ①BMI25以上の者のうちBMI25未満となったものの割合 又は ②運動習慣のある者の割合の増加	① 25% 又は ② 3ポイント



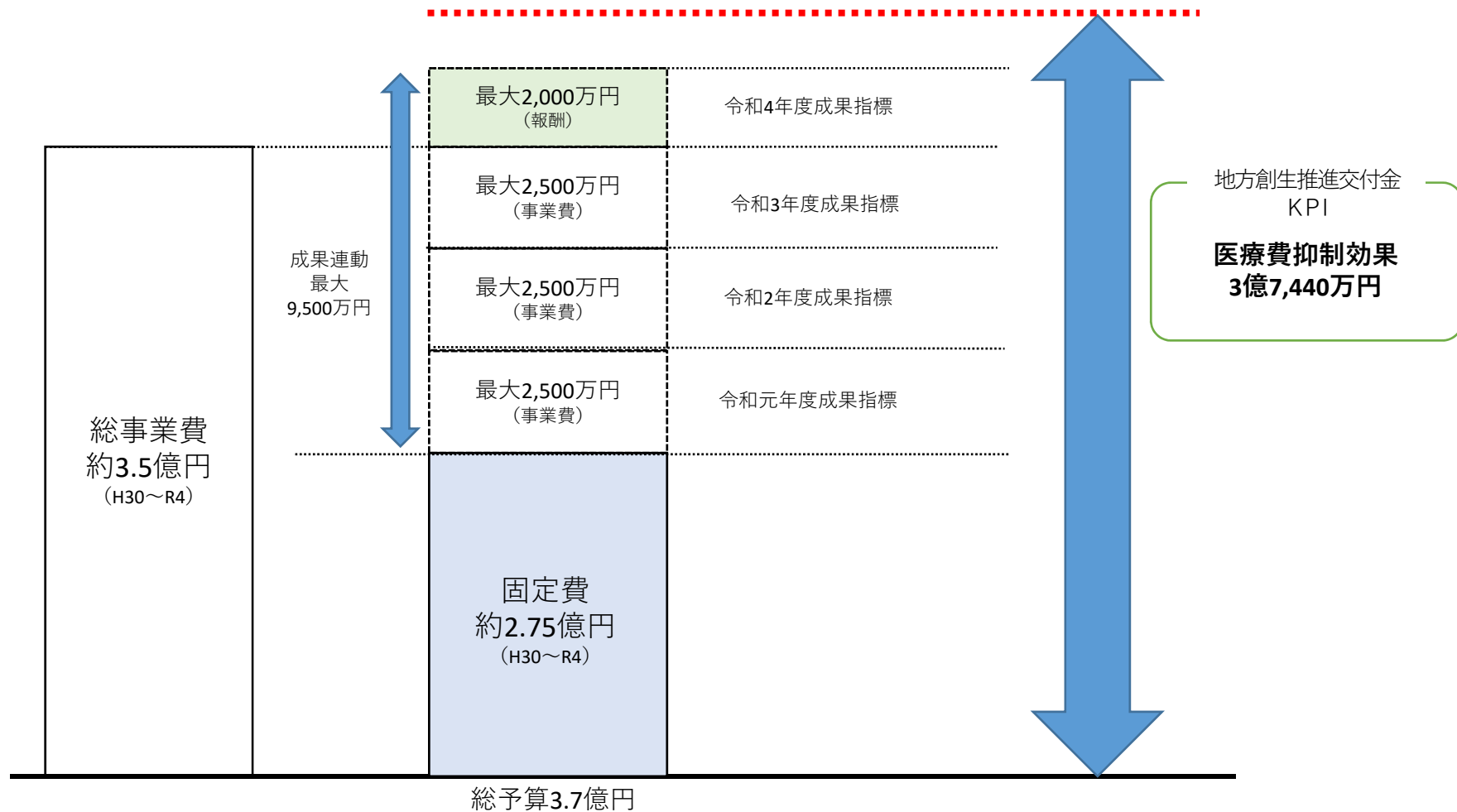
(3年間)

地方創生推進交付金KPI

参加登録者中の継続者数9,000人（R3成果指標）
× 医療費抑制額10.4万円/人 × 国保加入率40%
⇒ **3億7,440万円**

成果連動型支払額と医療費抑制額の関係

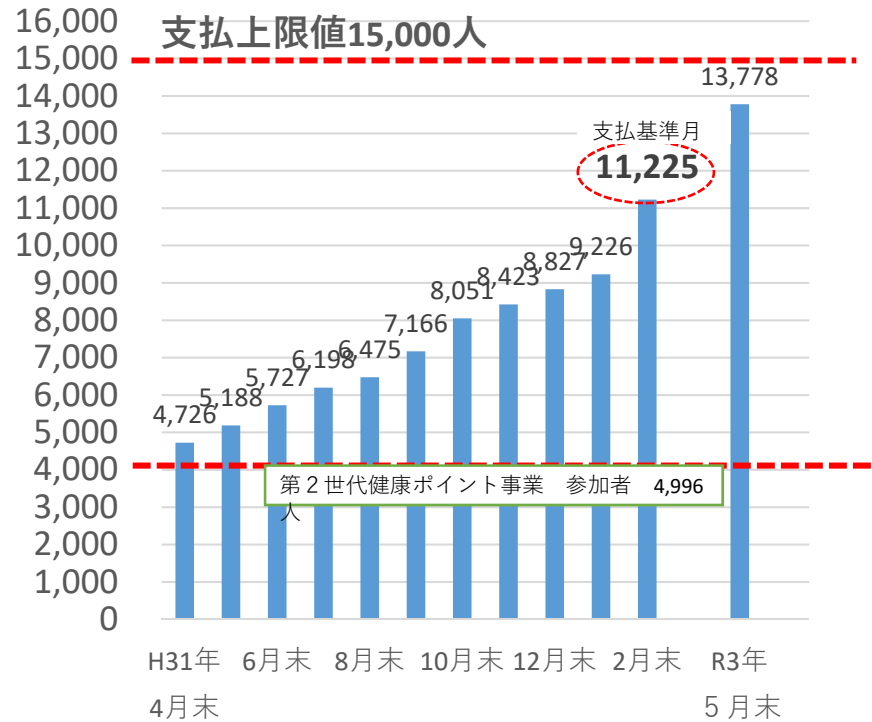
- 成果指標（1～4）の達成状況に応じた成果連動予算の執行・・・最大9,500万円
- 成果連動支払額に固定費を加えた総予算を超える医療費抑制効果を目指す。



令和元年度及び2年度の実績

R 1 成果指標 参加登録者数 (基準：R 2年2月末)

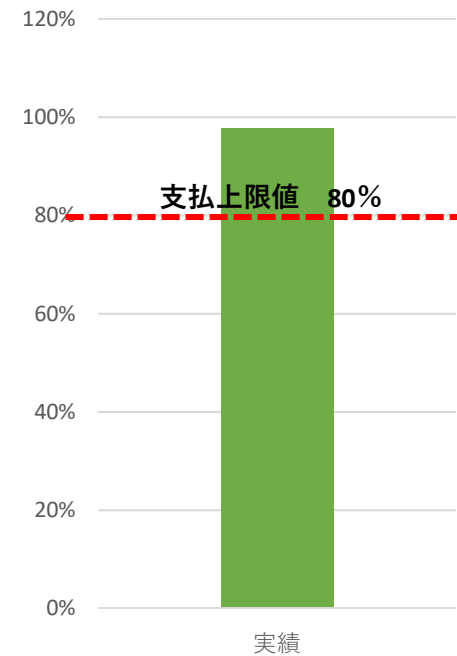
実績11,225人/支払上限15,000人 (74.8%)



固定事業費とは別に、成果連動事業費予算の74.8%を支払い。

R 2 成果指標 生活習慣改善の意識

実績97.8%/支払上限80% (122.2%)



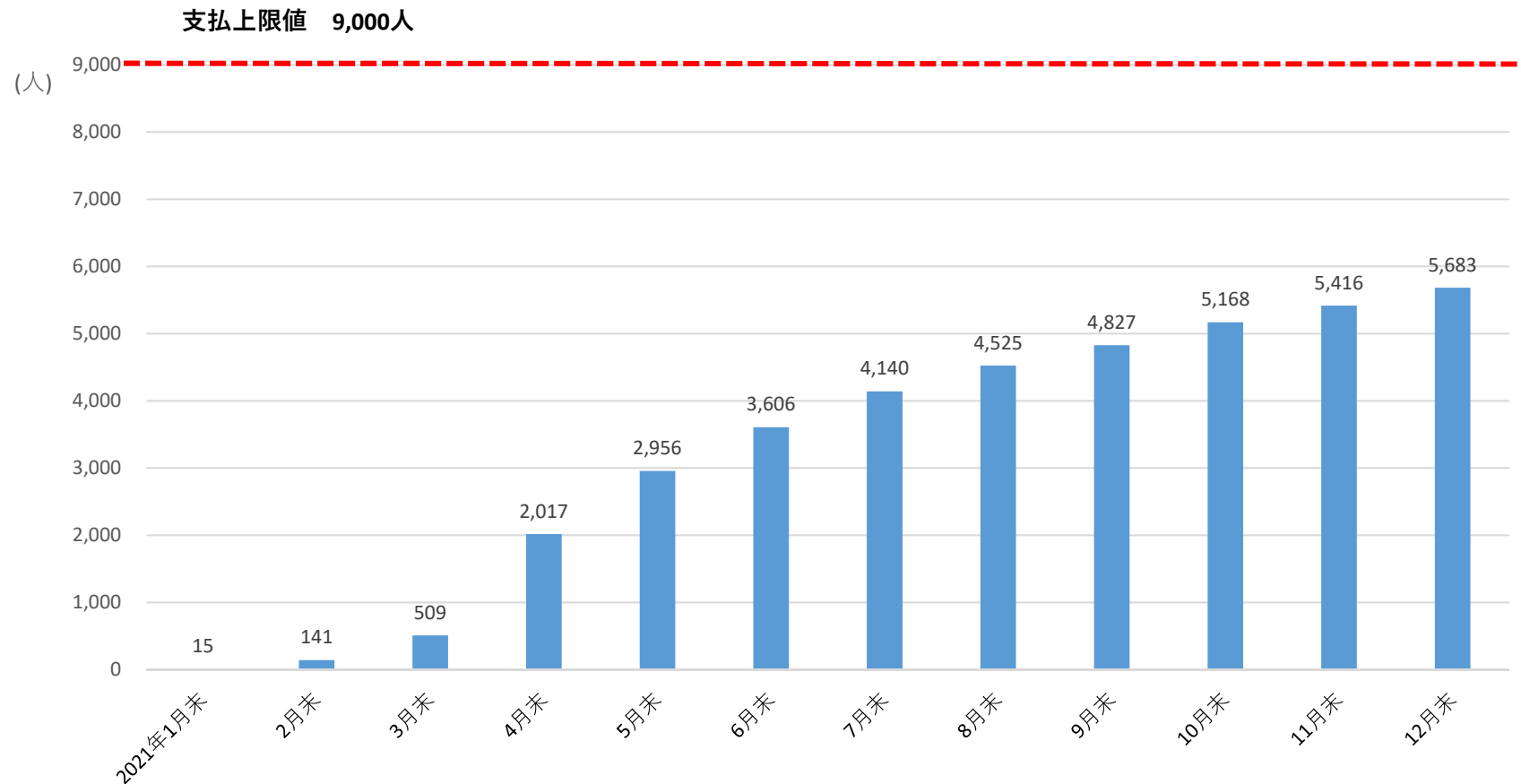
- 生活習慣改善の意識のある参加者の割合を調べるアンケートを実施
- 成果指標の「80%」を大きく超える「97.8%」に改善意識あり
- 成果連動事業費の予算は100%支出。

令和3年度の実績

R3 成果指標 継続者数

実績5,683人/支払上限9,000人 (63.1%)

- ・ 成果指標の算定には、コロナの影響を踏まえた補正を実施。
- ・ 成果連動事業費予算の63.1%を支払い。

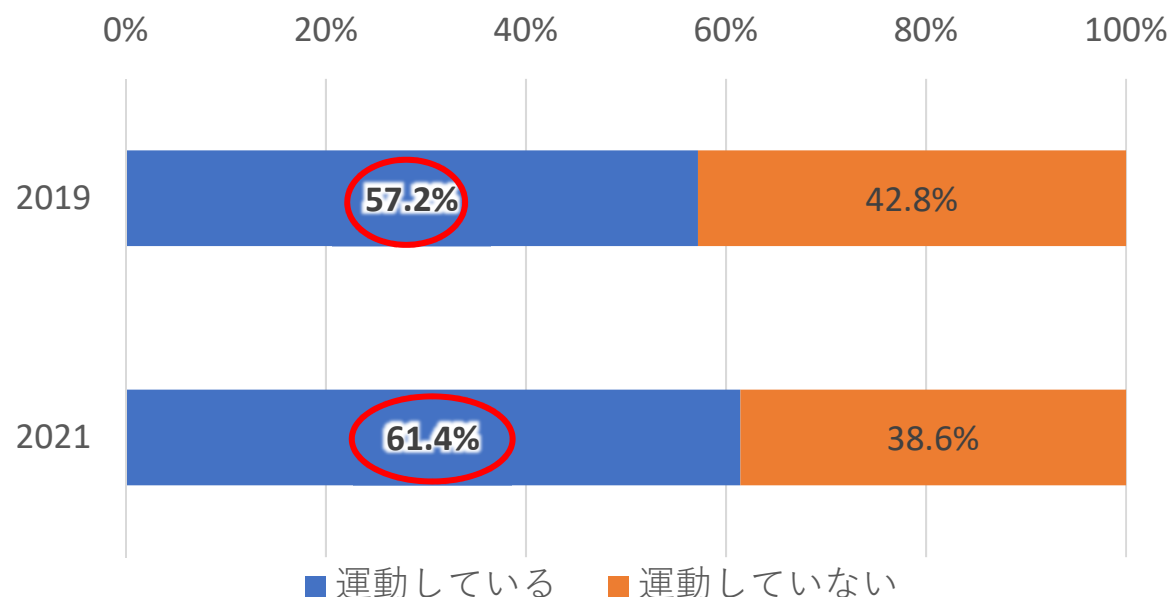


※コロナによる自粛を鑑み補正54人含む

令和4年度の実績①

ベースラインおよびエンドポイントの「運動習慣者」の変化
BMIと運動習慣、両方の項目に適切な回答を与えたものの数4,381人を対象

n=4,381

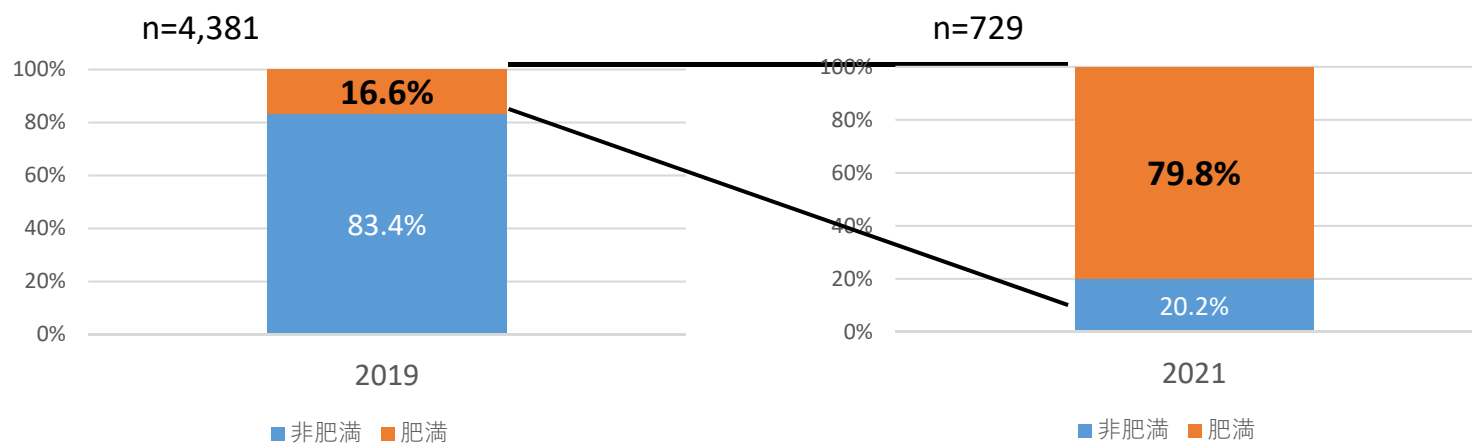


	2019		2021	
	人数	構成割合	人数	構成割合
運動している	2,505	57.2%	2,692	61.4%
運動していない	1,876	42.8%	1,689	38.6%
合計	4,381	100%	4,381	100.0%

参加者のうちベースラインで運動習慣をもつ者は2,505人（57.2%）存在した。
エンドポイント時点では2,692人（61.4%）で4.2ポイント上昇した。

令和4年度の実績②

ベースライン時肥満者においてBMIが改善した者の割合
BMIと運動習慣、両方の項目に適切な回答を与えたものの数4,381人を対象



	人数	構成割合
肥満あり	729	16.6%
肥満なし	3652	83.4%
合計	4381	100.0%

	人数	構成割合
肥満あり	582	79.8%
肥満なし	147	20.2%
合計	729	100.0%

参加者のうちベースラインで肥満者（BMI25以上）は16.6%存在した。
エンドポイント時点で肥満が改善した（BMI25未満となった）者は20.2%であった。

実績のまとめ（成果指標の達成状況）

成果指標

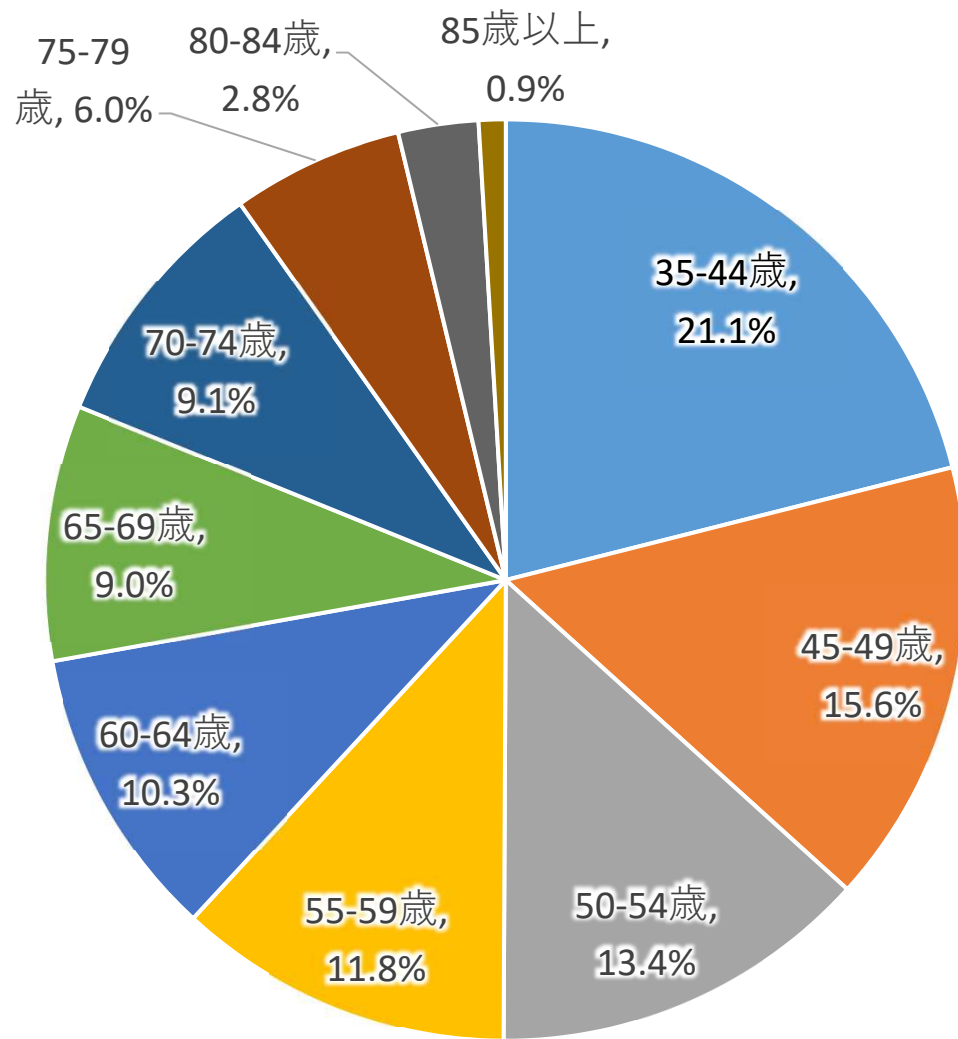
	成果指標	目標値 (A)	実績 (B)	達成率 (B/A)
H30	—	—		
R1	参加登録者数 (令和2年2月末時点) ※1	15,000人	11,225人	74.8%
R2	生活習慣改善の意識のある参加者の割合	80%	97.8%	122.2%
R3	週2回以上ポイントを獲得している参加者数 (継続者数)	9,000人	5,683人	63.1%
R4	健康状態の改善率 (参加時比) ①BMI25以上の者のうちBMI25未満となったものの割合 又は ②運動習慣のある者の割合の増加	① 25% 又は ② 3ポイント	①20.2% ②4.2ポイント	①80.8% ②140%

※1) 最終参加登録者数 令和3年8月末時点 14,064人

「おかやまケンコー大作戦」の事業評価 概要

- 分析対象者は、2019年と2022年のアンケート調査いずれにも回答した者
- 対象者数 5,874人（参加群：3,678人、非参加群：2,196人）
但し、アンケート項目により回答者数は変動
- アンケート調査、評価実施機関：日本老年学的評価研究機構（JAGES）

おかやまケンコー大作戦 全参加者年代別割合



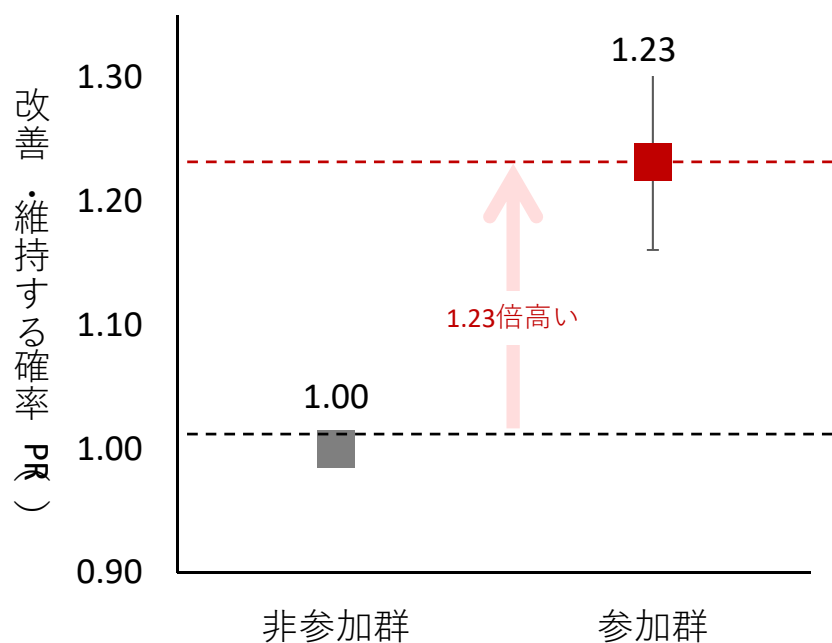
年齢区分	参加人数			割合
	男性	女性	合計	
35-44歳	1,258	1,704	2,962	21.1%
45-49歳	904	1,297	2,201	15.6%
50-54歳	795	1,085	1,880	13.4%
55-59歳	665	994	1,659	11.8%
60-64歳	556	893	1,449	10.3%
65-69歳	465	796	1,261	9.0%
70-74歳	438	838	1,276	9.1%
75-79歳	331	516	847	6.0%
80-84歳	173	223	396	2.8%
85歳以上	58	75	133	0.9%
合計	5,643	8,421	14,064	100.0%

年齢は、2021年3月31日時点

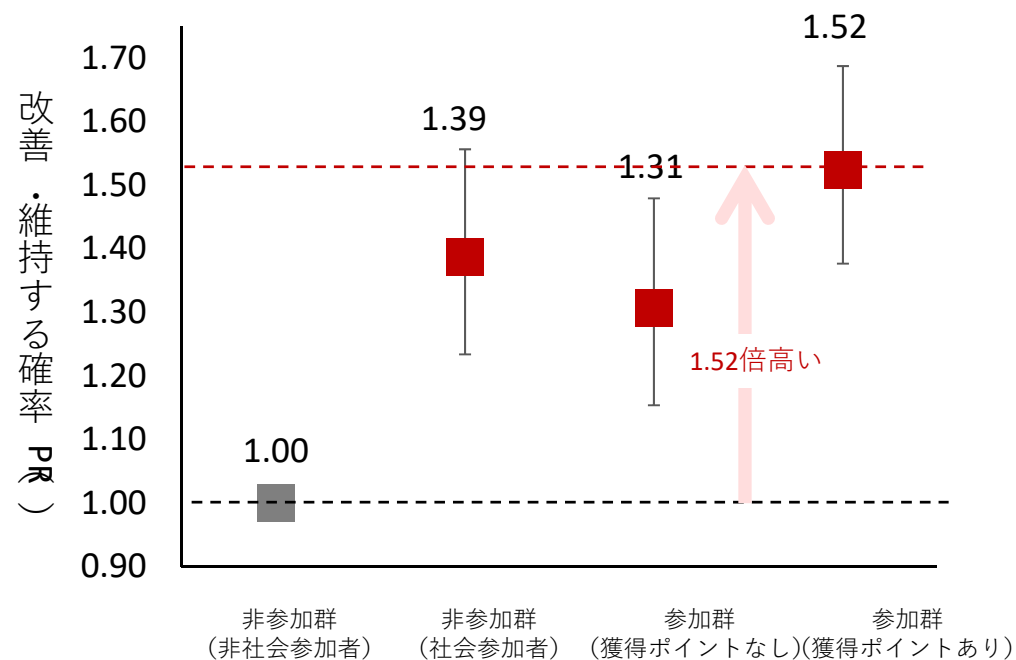
運動実施の変化について

参加群は、非参加群に比べて**運動実施を改善・維持する確率が1.23倍高い**
(ポイントを獲得した参加者は1.52倍高い)

n=5,493、■有意確率が5%未満 (p<0.05)



n=5,493、■有意確率が5%未満 (p<0.05)



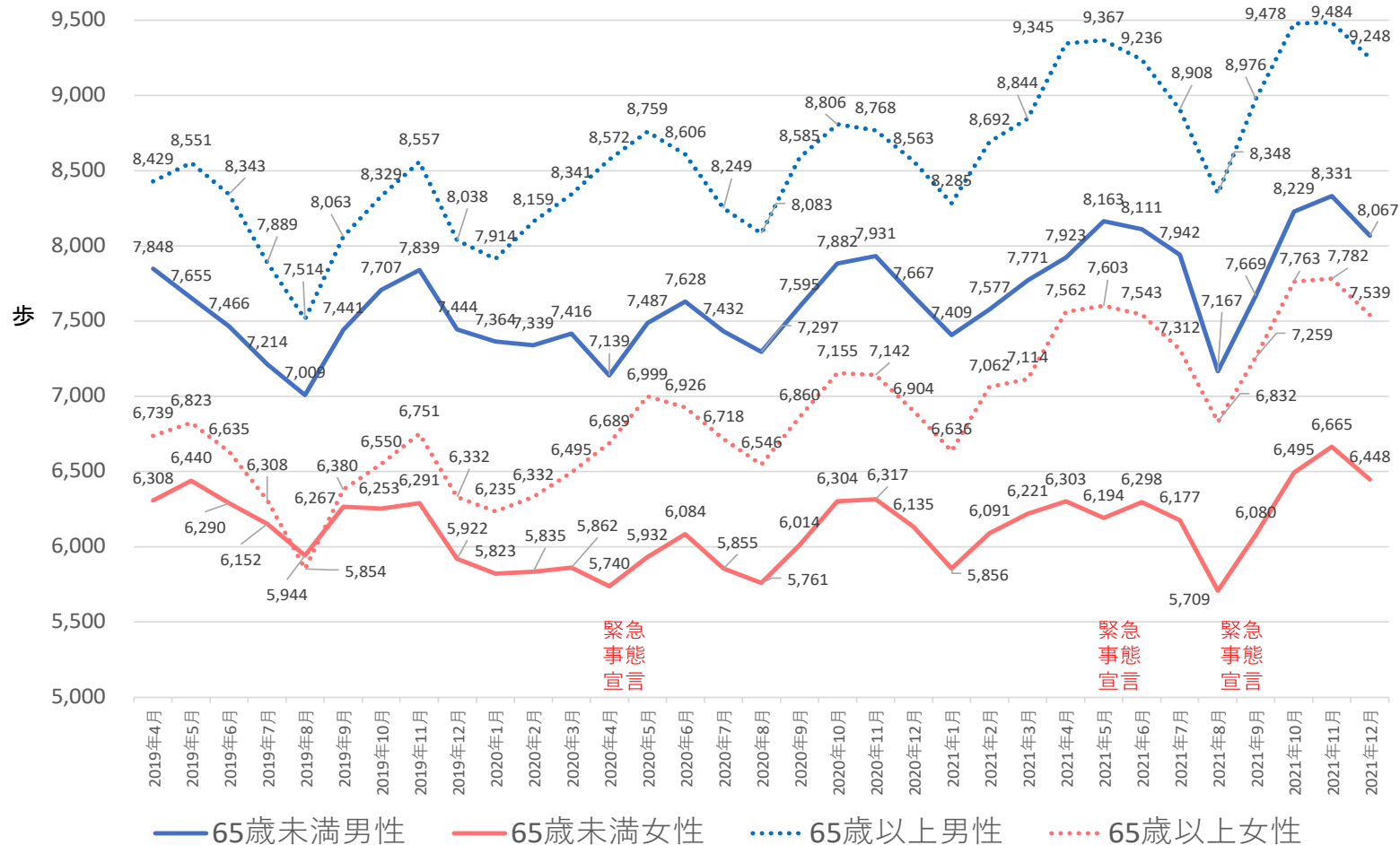
目的変数：運動実施の改善・維持（0：変化なし・悪化、1：改善・維持） 説明変数：性別・年齢・運動実施の有無

調整変数：2019年時の性別、年齢、運動実施+単回帰分析により運動実施の改善・維持と関連が見られた項目を調整

(BMI、主観的健康感、野菜・果物の摂取頻度、友人・知人と会う頻度、交流する友人・知人の人数、社会参加数、運動実施意向、食生活改善意向)

歩数の増加

月ごとの平均歩数 2019年4月～2021年12月
【アンケート調査回答者】



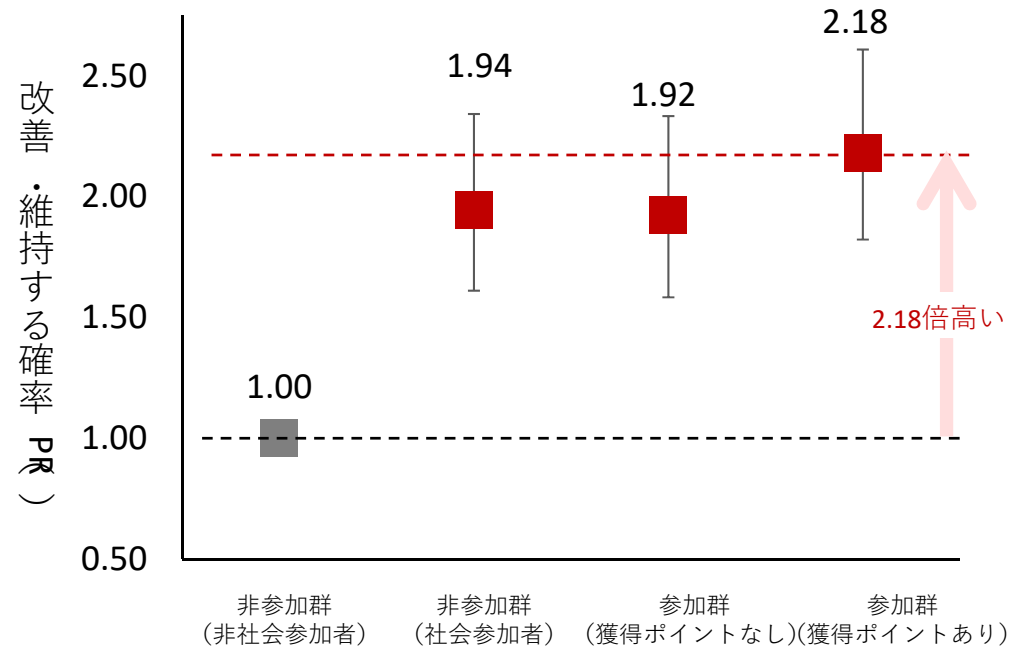
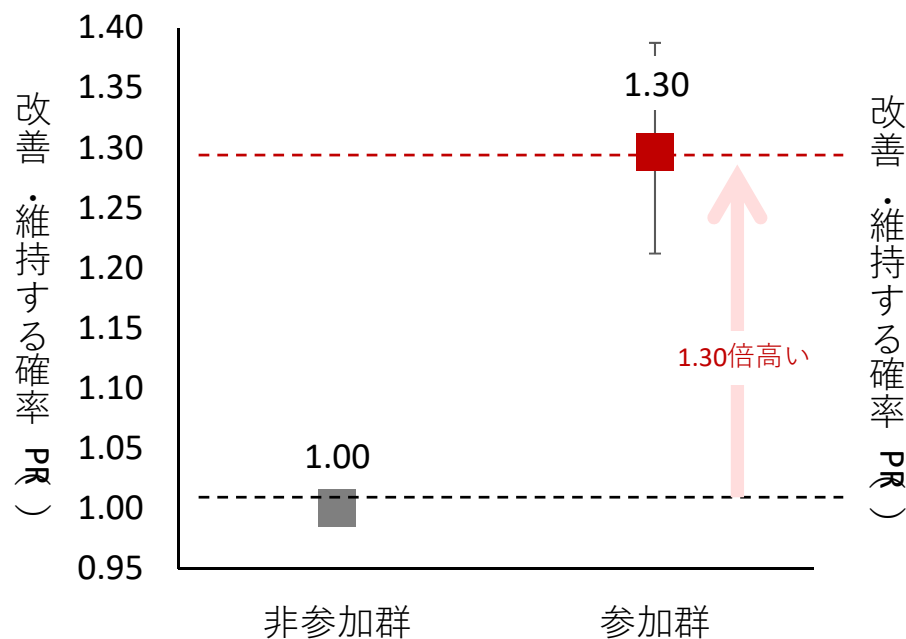
性別・年齢層	2019年4月の平均歩数	2021年12月の平均歩数	差
65歳未満	男性	8,067歩	+219歩
	女性	6,448歩	+140歩
65歳以上	男性	9,248歩	+819歩
	女性	7,539歩	+800歩

事業参加と「社会参加有無の改善・維持」

参加群は、非参加群に比べて社会参加有無を改善・維持する確率が1.30倍高い
 (ポイントを獲得した参加者は2.18倍高い)

n=5,523、■有意確率が5%未満 (p<0.05)

n=5,523、■有意確率が5%未満 (p<0.05)



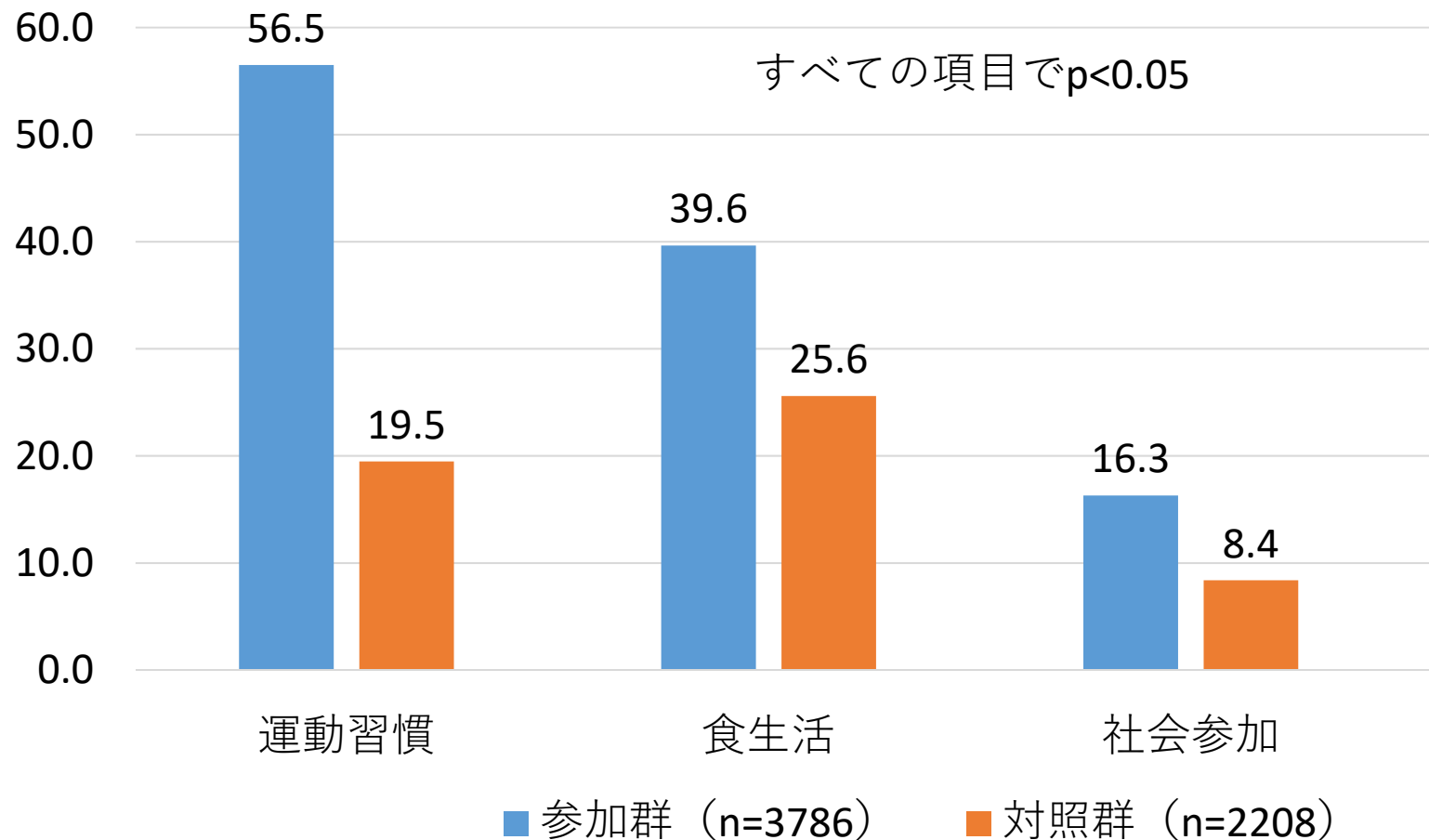
目的変数：社会参加有無の改善・維持（0：変化なし・悪化、1：改善・維持） 説明変数：事業参加有無

調整変数：2019年時の性別、年齢、社会参加有無+単回帰分析により運動実施の改善・維持と関連が見られた項目を調整（BMI、主観的健康感、運動実施、野菜・果物の摂取頻度、友人・知人と会う頻度、交流する友人・知人の人数、社会参加数、運動実施意向、食生活改善意向）

事業による生活習慣の変化について

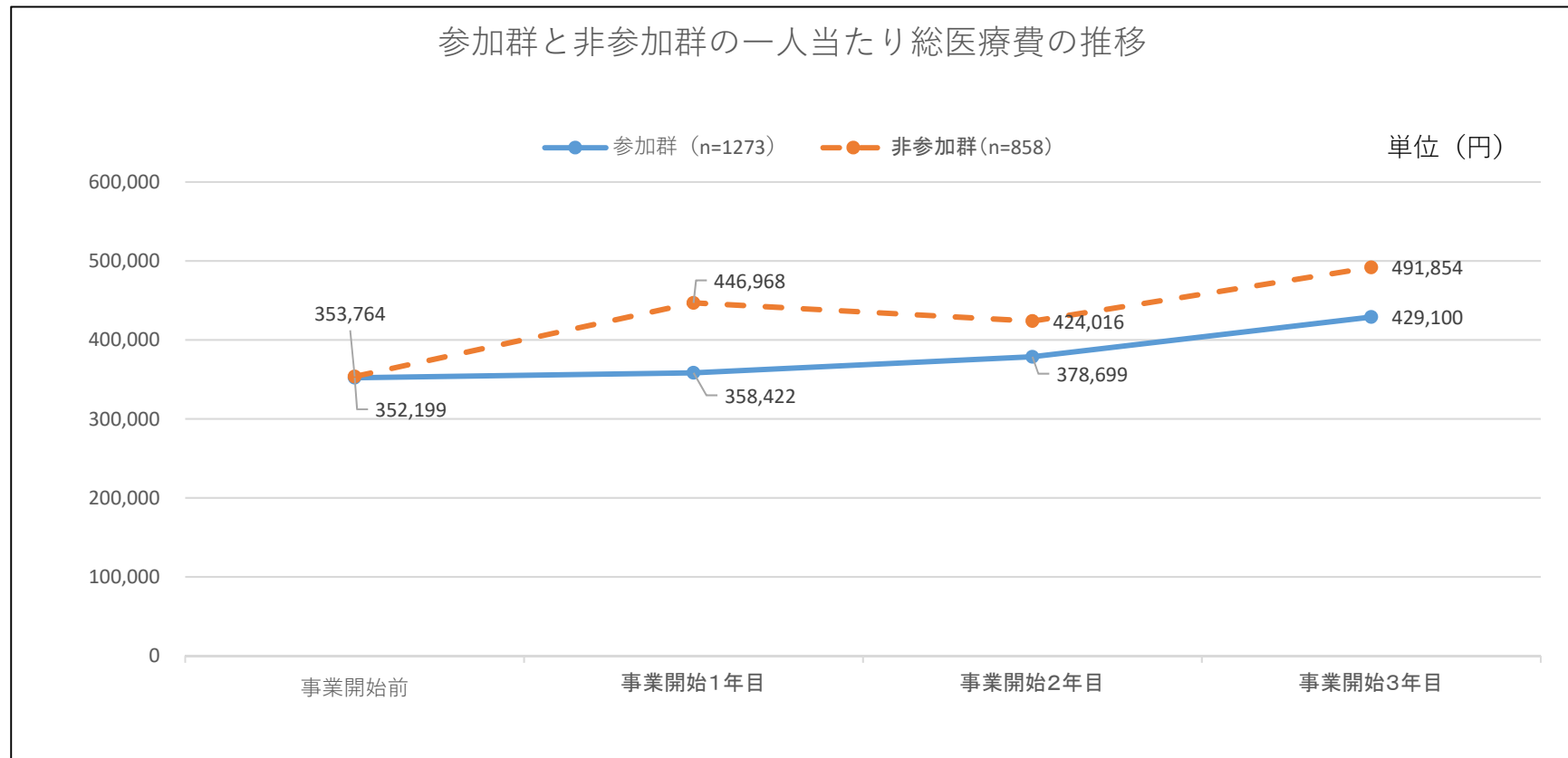
参加群は、対照群に比べて「運動習慣」「食生活」「社会参加」の生活習慣が改善したと答えた人の割合が有意に高い

「少し改善・かなり改善した」と答えた人の割合（%）



医療費の推移

- ・参加群、非参加群ともに年々上昇する傾向
- ・事業開始1年目のみ、統計的な有意差あり
- ・事業開始2年日以降で、コロナ禍による受診控えの影響が認められる。

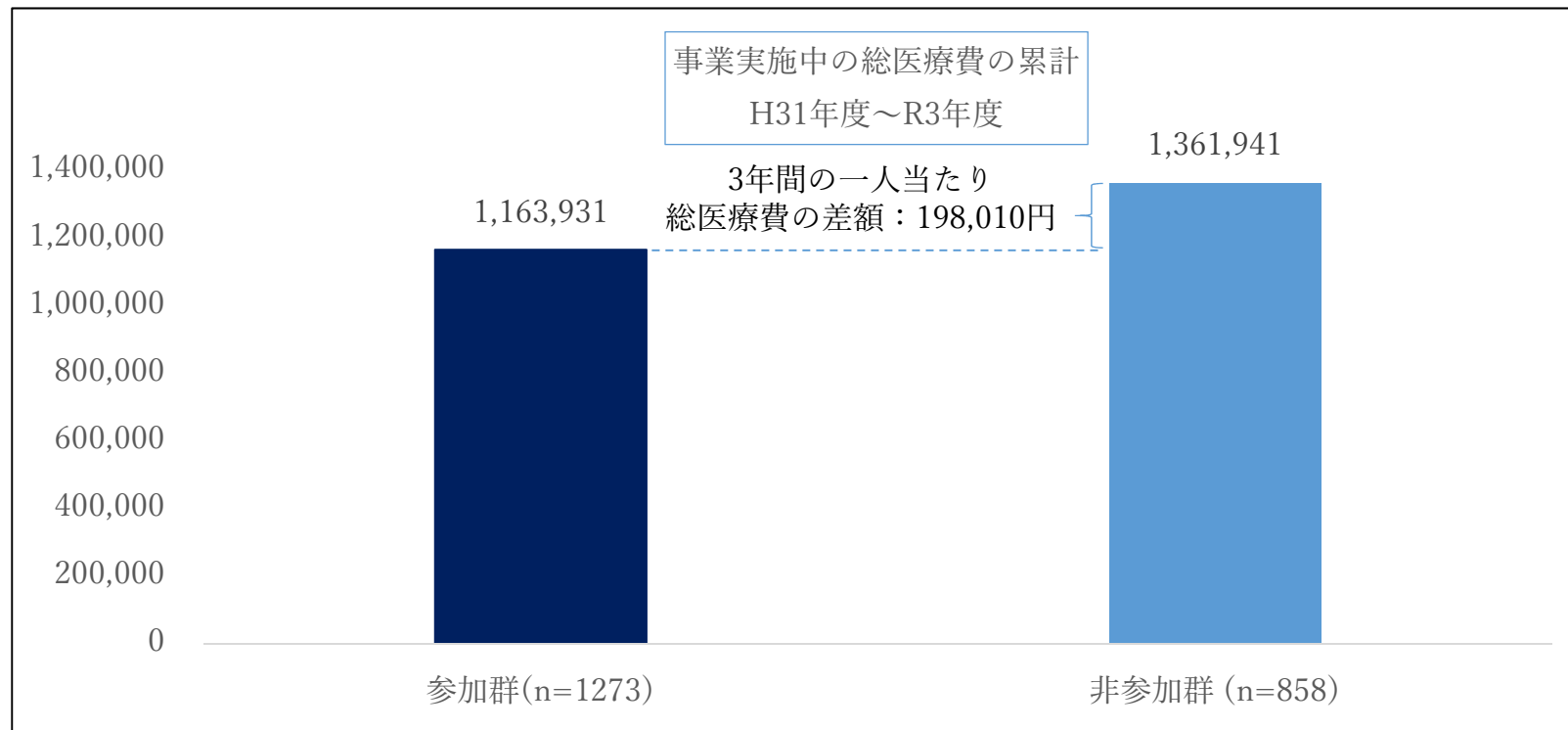


事業開始前... H30.4～H31.3 1年目...H31.4～R2.3 2年目...R2.4～R3.3 3年目...R3.4～R3.12
から年間を推計

※新型コロナ影響期間：R2.2～

医療費抑制効果額

- ・ 事業実施期間中の一人当たり総医療費の平均値は参加群で有意に低い
- ・ 事業実施による3年間の総医療費抑制効果額は、国保・後期高齢者医療制度加入者分だけで約3億円



(参考) 医療費抑制効果額 計算式

$$198,010\text{円} \times 4,243\text{人} \times 0.367 = \underline{308,337,410\text{円}}$$

198,010円：事業期間中に発生した参加群と非参加群の一人当たりの総医療費の差額

4,243人：2019年12月末までの参加者8,251人のうち、ポイントを獲得している者

36.7%：事業開始時の参加群における、国民健康保険及び後期高齢者医療制度加入者の割合

S I Bの成果と課題（まとめ）

行政

市民の健康課題解決への地元企業を巻き込む新しい官民連携の形と成果に応じた適切な行政負担

- 官民連携の気運醸成：出資者（23者）やサービス提供者（130事業所）として参画
- 適切な行政負担：成果指標に応じ減額

サービス提供者

成果連動型支払による民間企業がもつ高いノウハウの発揮

- 民間企業の連携により新たなサービスの提供ができた（フィットネス事業者が連携したイベント等）
- ×行政主導のSIBのため、企業の思惑（県内全域でサービス展開したい等）から外れる場合があり、民間企業のノウハウが生かし切れなかった

出資者

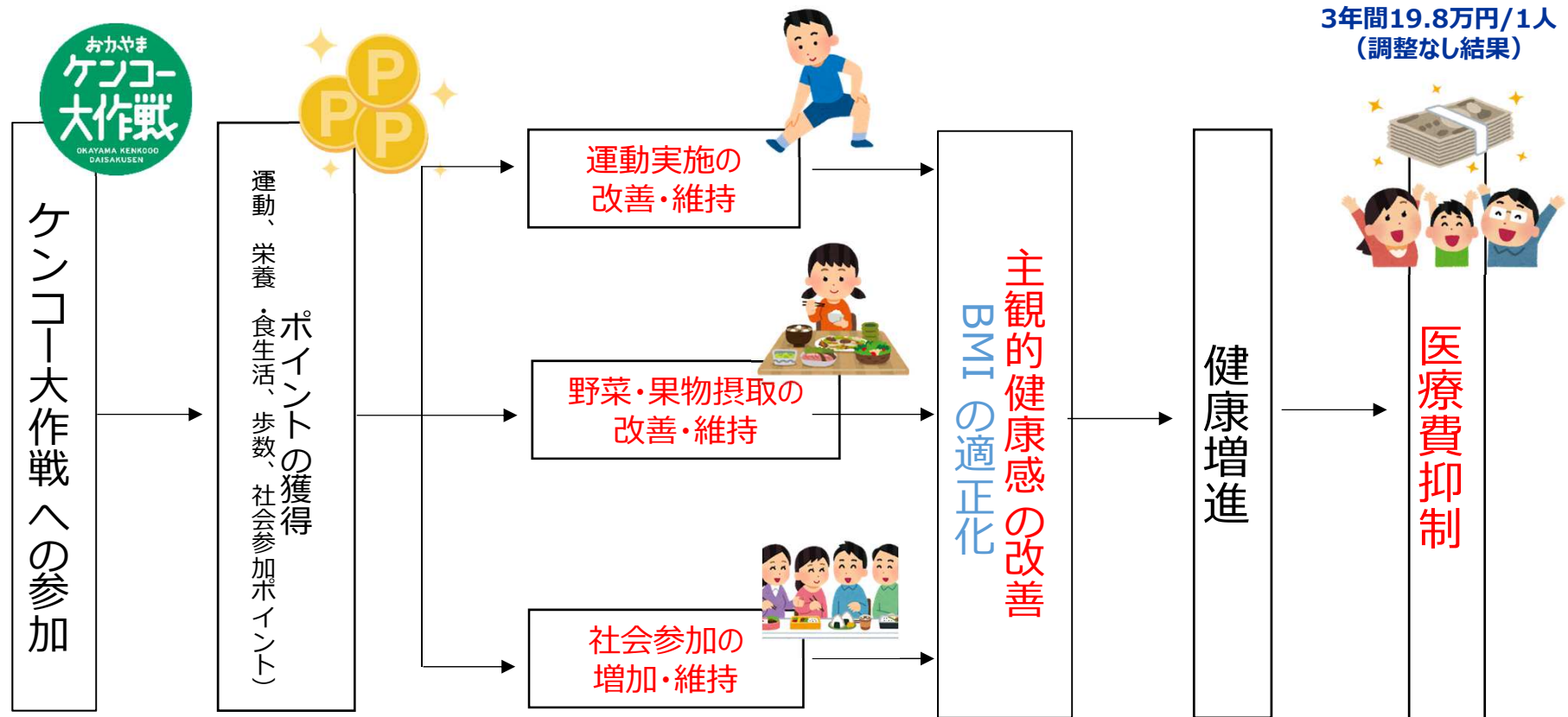
適切なリターンによる、持続可能な社会課題解決への貢献

- 出資を通じて、民間企業が健康増進の必要性を社会的課題として認識した
- ×行政主導のSIBのため、出資者間で事業に対する温度差があった
- ×出資にかかる企業内の処理の煩雑さに比べ、出資額が小さく、企業側の理解が得られにくい
- ×投資案件の規模としては少額であり、管理コストを考えると非効率

「おかやまケンコー大作戦」評価結果のまとめ①

- 参加群は非参加群に比べて「運動実施」や「野菜・果物の摂取」「社会参加」「主観的健康感」などで「改善「している」人が多い）」や「維持「している」人」の割合が高い。
- 事業実施期間中のBMIの適正化は、統計学的には有意でないものの、参加群、非参加群ともに適正化される傾向が確認された。
- 平成31年4月から令和3年12月までの一人当たり総医療費を参加群と非参加群で比べたところ、参加群の方が一人当たり198,010円安く抑えられていた。

「おかやまケンコー大作戦」評価結果のまとめ②



2022年調査結果
生活習慣の改善に最も励みになったのは
「ポイント特典 (72.0%)」

凡例
赤字：統計学的な有意差あり
青字：統計学的な有意差なし